

I 令和7年度 大町中学校の経営ビジョン

1 教育理念：聴く学校

学校は、そこで学ぶ誰もが、学び合い育ち合う場です。学校で多様な他者の見方・考え方に触れることで、私たちは自分の中の見方・考え方を更新していきます。また、多様な他者との関わりの中で、私たちは自分のよさや可能性を見出したり、他と協働する力を高めたりしていきます。

学校が、お互いの存在を尊重し合う温かで幸せな空間であってこそ、私たちは安心して自己を表出し、多様な他者との対話を深めることができます。そのためには、だれに対しても、どんな時でも、きちんと相手のことばを「聴く」姿勢をもたねばなりません。「聴く」ことを実践しているとき、私たちは自然に相手の立場を尊重しています。なぜなら、相手のことばを聴いている間、私たちは相手からのメッセージを知るまで、コミュニケーションの流れを相手に委ねるからです。つまり、この「聴く」という行為は、音や言語を情報として耳に入れる「聞く」よりも、相手を尊重し、相手とつながろうとする明確な意志をもっているのです。そこには自己中心的な判断や偏った見方は存在しません。

大町中学校では、このような考えの下、教育理念「聴く学校」を掲げ「生徒の存在を丸ごと受け入れ、生徒の声や心の声に耳を傾け、共に歩む教師」を全ての教育活動の場で貫いてきました。その結果、「聴く」姿勢が生徒にも浸透しはじめ、生徒間の対話の内容が豊かになりつつあります。お互いの存在を尊重し合う温かで幸せな学校で、生徒たちが安心して自己を表出し、友と関わりながら納得するまで学び続けられるように、大町中学校は「聴く学校」を貫きます。

2 めざす学校像：生徒が生きることと学ぶことを統合する学校

現代社会は、変化が激しく予測が困難な社会です。このような社会で自己実現を果たし、それぞれの幸せや生きがいを感じて生きていくためには、生涯にわたって学び続けなければなりません。学んだことが自分とつながり、学ぶことによって自分が変わっていく経験を重ねることで、私たちは学ぶことの意味や価値を実感し、よりよく生きるために学び続けようとしています。生きることと学ぶことを統合することで、私たちは自己実現をめざして生涯にわたって学び続ける学習者となるのです。教育目標「自立した学び手となる」の根底にあるのは、このような考えです。

本校の学校づくりの根幹は授業です。「聴く学校」の理念に基づき、一斉授業を最小限に止め、対話を基盤として「問い」について少人数で互恵的に語り合う「協働の学び」の授業を、全教科・全領域で展開します。かつてのような知識や技能を正確に習得することを重視した授業ではなく、生徒が新たな世界と出会い、友や教師あるいは自分自身と対話しながら自己を更新し、自分の新たな可能性を見出す授業へと、授業の質的改善を図ります。更に「地域に開かれた教育課程」を実現させ、教科等の授業で育んだ資質・能力を活用して、地域の中で探究的・創造的に学ぶ学習を展開します。教室と実社会で深い学びを重ねることで、学んだことが自分とつながり、生徒は学ぶことによって自分が変わっていくおもしろさを経験するでしょう。そして、学ぶことの意味や価値を自分の言葉で語れるようになるでしょう。こうして生徒が生きることと学ぶことを統合することで、教育目標「自立した学び手となる」に近づいていくと考えます。

また現在、生徒は様々な問題と直面しており、その多くは他者との関係性にかかわる問題です。本校は「聴く学校」の理念に基づき、「学びづくり」と「関係づくり」を重点に据え、多様性を包み込む学びの環境づくりに努めます。そして「協働の学び」の授業と「地域に開かれた教育課程」によって、生徒の「自己有用感」「考える力」「協働する力」の向上を図り、生徒を取り巻く問題の解決に挑みます。「聴く」ことを貫き、生きることと学ぶことを統合する学校文化を地域社会と共に築くことで、生徒はふるさと大町に誇りと自信をもち、持続可能な社会の担い手になってくれるでしょう。

大町中学校長 塚田 秀